

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

平成 31 年 2 月

○ 概要

（１） 平成 31 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,046 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲2.7%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,841 円（伸び率▲2.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,582 億円（伸び率+1.0%）、薬剤料が 4,453 億円（伸び率▲3.9%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 865 億円（伸び率+0.5%）であった。（→P.4）

（２） 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,178 円（伸び率▲4.1%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.76 種類（伸び率▲1.2%）、23.9 日（伸び率+4.9%）、78 円（伸び率▲7.4%）であった。（→P.8,9）

（３） 薬剤料の多くを占める内服薬 3,540 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲163 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 642 億円（伸び幅▲89 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+42 億円（総額 300 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,540 億円 （▲163 億円）	21 循環器官用薬 （642 億円）	11 中枢神経系用薬 （603 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（543 億円）
0 歳以上 5 歳未満	27.2 億円 （▲7.6 億円）	44 アレルギー用薬 （11.0 億円）	61 抗生物質製剤 （4.7 億円）	22 呼吸器官用薬 （4.0 億円）
5 歳以上 15 歳未満	93.2 億円 （▲2.7 億円）	44 アレルギー用薬 （39.2 億円）	11 中枢神経系用薬 （19.3 億円）	62 化学療法剤 （8.4 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,268 億円 （▲37 億円）	11 中枢神経系用薬 （261 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（203 億円）	21 循環器官用薬 （193 億円）
65 歳以上 75 歳未満	831 億円 （▲61 億円）	21 循環器官用薬 （183 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（158 億円）	11 中枢神経系用薬 （98 億円）
75 歳以上	1,320 億円 （▲55 億円）	21 循環器官用薬 （263 億円）	11 中枢神経系用薬 （224 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（177 億円）

（４） 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,841 円（伸び率▲2.4%）で、最も高かったのは北海道（10,588 円（伸び率▲0.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,462 円（伸び率▲4.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは北海道（伸び率▲0.3%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲9.7%）であった。（→P.31~32）

《 後発医薬品の使用状況について 》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	77.5 %	+5.1 %
薬剤料ベース	19.4 %	+0.9 %
後発品調剤率	74.3 %	+2.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	54.0 %	+4.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.5%	+17.1% （20 歳以上 25 歳未満）	▲9.0% （65 歳以上 70 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.4%	22.1% （0 歳以上 5 歳未満）	13.8% （10 歳以上 15 歳未満）
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	77.5%	80.3% （60 歳以上 65 歳未満）	69.9% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	762 億円 （▲5 億円）	21 循環器官用薬 （234 億円）	23 消化器官用薬 （100 億円）	44 アレルギー用薬 （91 億円）
0 歳以上 5 歳未満	7.7 億円 （+0.9 億円）	44 アレルギー用薬 （2.9 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.2 億円）	61 抗生物質製剤 （1.3 億円）
5 歳以上 15 歳未満	21.1 億円 （+3.3 億円）	44 アレルギー用薬 （12.8 億円）	61 抗生物質製剤 （2.7 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.5 億円）
15 歳以上 65 歳未満	273 億円 （+7 億円）	21 循環器官用薬 （67 億円）	44 アレルギー用薬 （51 億円）	11 中枢神経系用薬 （42 億円）
65 歳以上 75 歳未満	182 億円 （▲10 億円）	21 循環器官用薬 （73 億円）	23 消化器官用薬 （23 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（19 億円）
75 歳以上	278 億円 （▲6 億円）	21 循環器官用薬 （94 億円）	23 消化器官用薬 （47 億円）	11 中枢神経系用薬 （33 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,264 円	1,671 円（北海道）	1,063 円（佐賀県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.8%	+4.4%（高知県）	▲11.0%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	77.5%	86.5%（沖縄県）	70.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.4%	23.2%（鹿児島県）	16.8%（徳島県）
後発医薬品調剤率	74.3%	82.3%（沖縄県）	68.9%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	54.0%	63.2%（沖縄県）	49.5%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成31年2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。